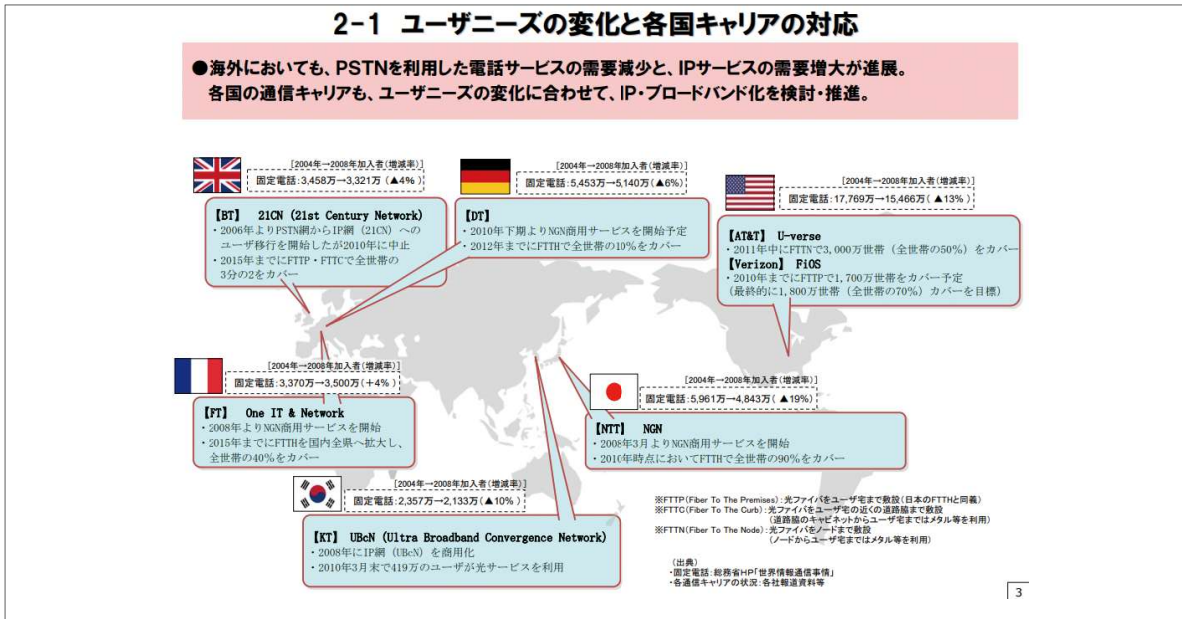


図表1-2-8 ユーザーニーズの変化と各国キャリアの対応



出所: NTT 東日本、NTT 西日本「PSTNのマイグレーションについて～概観的展望～」(2010年11月2日)

ル利用ユーザー数が少なくなった段階で代替サービスの提案を行うといった、将来的なメタルから光へのマイグレーションについても言及した。

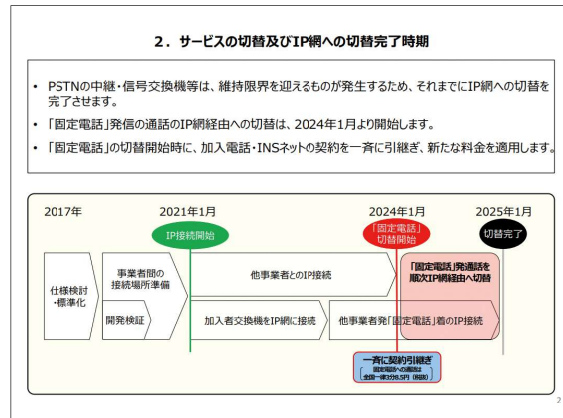
さらに5年後の2015年11月6日には、「概観的展望」の見直しを行い、「『固定電話』の今後について」として公表。具体的には、PSTNマイグレーションについて、現在利用している基本的な音声サービス、基本的な通話、ISDNの通話モード、キャッチホン、ナンバーディスプレイ、公衆電話が利用可能であることや、ユーザー宅での工事は不要で、現在の電話機等はそのまま利用可能であるとして、各ユーザーへの影響を最小限に抑えることを強調している。

料金については、基本料はほぼ同等の料金となる一方で、通話料は距離に依存しないIP網の特性を活かし、全国一律のより使いやすい料金設定となることも明らかにした。

IP網への移行時期については、関係事業者との対応を踏まえて今後公表するが、交換機がメンテナンスも含めて維持限界を迎える2025年頃までに移行となる予定であることも提示された。

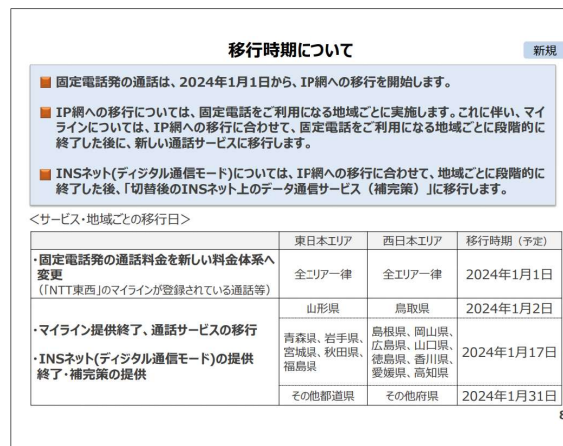
その約2年後となる2017年10月には「固定電話のIP網への移行後のサービス及び移行スケジュール」を(図表1-2-9)、2022年12月には、より詳細な移行スケジュールをNTT東西が発表し、固定電話サービスのPSTNマイグレーションの完了時期を2024年1月31日とした(図表1-2-10)。この中で、ユーザーへの負担や影響を最小限に抑えること、そして、PSTNマイグレーションに際し、ユーザー宅での工事が不要であり、現在利用中の電話機はそのまま利用できることを再度強調している。これは、マイグレーションに向けて、ユーザーが悪質な販売勧誘による被害に巻き込まれることを防止する注意喚起のためでもあった(図表

図表1-2-9 固定電話のIP網への移行後のサービス及び移行スケジュールについて



出所: NTT 東日本、NTT 西日本「固定電話のIP網への移行後のサービス及び移行スケジュールについて」(2017年10月17日)

図表1-2-10 固定電話のIP網への移行後のサービスについて①



出所: NTT 東日本、NTT 西日本「固定電話のIP網への移行後のサービスについて」(2022年12月8日)